



来年度に向けて



「府中がんケアを考える会」の皆さんへ。会報26号をお届けします。私の手元に「がんのひみつ」（朝日出版社刊）という小さな本があります。著者は東大病院の中川恵一さん。数年前、毎日新聞に週一回がんについての文章を連載されていたので迷わず買い、その日のうちに読み切りました。ぜひ多くの人に知ってほしいと思う文章に出会いましたので、別の機会に紹介したいと思います。

本年度を振り返って

早いもので「ホスピスを考える会」の創立から来年度には15回目の総会を迎えようとしています。本年度の活動を振り返りますと

1) 患者会の定期的な開催、2) ホームページの作成、3) 会報の定期発行、4) ホスピス施設の資料作成など順調に達成した事業目標があります。

会の中心的課題である「緩和施設」の検討に関しましては、見学会を数回行いましたが事業計画に向けての議論までには至りませんでした。

総会に向けて

この間の患者会を振り返りますと当初の予想を超え、若年層の参加者が増えています。そのほとんどが子育て中であり、就労されている方です。

ともすると高齢で寛解、あるいは闘病中の患者さんのケアを考えることが運動の中心でしたが、若い人たちに対しても応援できるような会にしてゆかなければ、と思いを新たにしています。

国では「がん対策基本法」が制定され、いくつかの地方自治体でも独自のがん対策条例が制定されています。

近隣では日野市において「がん対策推進基本条例」が採択されていますが、過日の役員会において日野市の議員から制定までのお話を聞くことができました。学ぶところが多く、会の今後の運動においても参考になるのではないかと考える次第です。

患者会は患者さんの中で運営できる体制が進みそうです。今後、会役員はお手伝いに徹し、患者中心でおしゃべり会を進めていければと思います。

会員の皆様の期待にこの一年応えられなかったところも多々ありますが、15回総会の席で新たな年度へ向けお話したいと存じます。ぜひご参加をお願いします。

「日野市がん対策」の取り組み活動について

平成28年2月28日に当会役員会議(7名参加)が行われ、がん対策に自治体として都内初の「がん対策条例」を施行した日野市の取り組みについて、日野市議会議長の菅原直志氏をお招きしました。

冒頭、菅原議長から自治体としてがん対策をすすめるにあたり「がん患者とその家族や生活を支える体制を構築していく」事を念頭に日野市議会議員全員が参加し、提言書に取りまとめてきたと述べていました。というのも、当時現職市議会議員であった今井昭徳氏が46歳の若さで2011年6月に死去された事が大きなきっかけだったとの事でした。がん発覚から間もなく6月議会では病床の身でありながら、全身全霊を込めて一般質問を行ない、それを聴いた他の議員や市民の心にその姿が強く刻み込まれた所以でもあったとの事でした。

提言書に関しては、日野市議会がん対策議員連盟を立ち上げ、2011年10月3日から2012年2月24日までの約5ヶ月弱の間に9回の全体会議と6回の幹事会を経て、日野市長に提言書を提出。提言書の内容は主に①予防期での対策、②治療期での対策、③地域医療連携のあり方、④終末期での対策、⑤患者・家族ケア、⑥がん教育の6分野から成り、17項目の提言と47の具体的な施策が盛り込まれた内容でした。

その後、日野市では関係各局で調整され、同年9月28日に市長提出議案として「日野市がん対策推進基本条例」が満場一致で可決されたとの事でした。

概要の説明後、質疑応答に入り、条例施行後の事業運営や提言書の中で実現が難しい施策について

日野市がん対策基本条例の概要(日野市H. P. より)

市の責務

- 1 がんに関する正しい知識の普及啓発及び予防に実効性のある施策の実施に努める
- 2 保健医療関係者並びにがん患者及びその家族と連携を図りながら、必要な施策を実施するよう努める

市民の役割

- 1 がんに関する正しい知識を持ち、喫煙、食生活、運動及び生活習慣の改善等、がん予防に努める
- 2 市が行うがん予防・検診事業に積極的に参加し、がんの早期発見・早期治療に努める

保健医療関係者の役割

- 1 市が実施するがん対策に関する施策に協力し、がん予防に努める
- 2 適切ながん医療を提供できるよう努める

事業者の役割

- 1 従業員に対するがん対策に関する啓発活動及びがん検診受診率の向上に努める
- 2 がん罹患した従業員及びその家族等に対して、公的な生活支援策等に関する適切な情報提供に努める

また、がんの予防及び早期発見の推進、地域医療連携の推進・在宅医療の体制整備、緩和ケアの推進、がん患者及びその家族への支援、がんに関する教育等の推進、地域がん登録の推進について、国、東京都、保健医療関係者等との連携を図りながら、市の特性を生かしたがん対策を推進していきます。

市民、保健医療関係者、事業者の皆様のご協力をお願いいたします。

の議会側と行政側のやり取り、今後の展望、市民の側から出来ることについてのアドバイス等、当会の活動の紹介を織り交ぜながら、活発な意見交換が出来ました。

がん患者とその家族を支える体制をつくるために何が出来るのか、今一度活動の原点に立ち返り、改めて今後の展望と活動の意義を認識することが出来たと思います。

お忙しい中、貴重な時間を割いてお話いただいた菅原直志議長に心から敬意と感謝を表しつつ、先般の役員会活動報告と致します。

(文責：稲津憲護)

がんケア豆知識 第6回 「がん緩和ケア(がん緩和治療)」

訪問看護師 宮田乃有

がんの治療には主に ①手術、②抗がん剤、③放射線治療 があげられますが、さらにがん治療の早期から「がん緩和ケア(がん緩和治療)」を取り入れていこう、という動きが広がっています。

「緩和ケア」というと「終末期の医療」というイメージが強く、患者さんやご家族から「今は治療中なので関係ない」「痛みは仕方がない」「モルヒネは怖い」「主治医から何も言われておらず、必要ない」「そういう話は聞きたくない」といった声を聞くことがあります。残念ながら医療者などの専門職でさえ、緩和ケアについて古いイメージをもっている方もいらっしゃるようです。

たしかに、WHO(世界保健機構)による1989年の緩和ケアの定義をみると、「緩和ケアとは、治癒を目的とした治療に反応しなくなった疾患を持つ患者に対する積極的で全体的な医学的ケア」とされており、いわゆる終末期のケアと考えられていました。

しかし、2002年の定義では「緩和ケアとは、生命を脅かす疾患に起因した諸問題に直面している患者と家族のクオリティ・オブ・ライフ(生命・生活・人生の質)を改善するアプローチ」とされています。また、「痛み、その他の身体的・心理社会的・スピリチュアル(霊的)な諸問題の早期かつ確実な診断、早期治療によって苦しみを予防し、苦しみからの解放を実現すること」とあり、緩和ケアは「苦しみの予防」を含めた新しい概念へと大きく変化しているのです。

2007年に日本で策定された「がん対策基本法」も、この新しい定義にもとづき、「がん患者及びその家族が可能な限り、質の高い療養生活を送れるようにするため、治療の初期段階から緩和ケアの実施を推進していくこと」が掲げられています。‘緩和ケアを早期かつ定期的に受けていた患者さんのほうが、生存期間が長かった’という研究結果もあります。緩和ケアは、がんによる痛みや不安だけでなく、死生観に関わる苦悩、経済面など社会的な支援を含めた幅広いケアを提供することで、患者さんやご家族の療養生活がよりよい方向へ変化していくことをめざします。

主治医や緩和ケア外来、病院や地域の相談窓口への相談や、緩和ケアを支援するWebサイト(ホームページ)の閲覧などを通して、多くの患者さん・ご家族が緩和ケアを知り、安心して治療や療養生活を継続できることを願っています。



<参考>

* 「がん治療」新時代 Web

<http://gan-mag.com/medical/2103.html>

* 総合臨床第56号第9号掲載 生と死の医学 連載1 終末期医療をめぐる様々な言葉

http://www.hpci.org/what/hpc_words.pdf

ホスピスの風景から ～ホスピスについて～

講演者： 聖ヶ丘病院 地域連携室 室長 看護師 太田 いく氏

2015年12月13日 ルミエール第一会議室において、41名の満員御礼の中、とても分かりやすく講演をして頂きました。

今回は頂いた資料を抜粋してご報告します。詳しくお知りになりたい方は、是非当会へお問い合わせください。(毎月行われる患者会の会場にてご説明することもできます)

- * ホスピスについて
- * 日本のホスピス
- * 緩和ケアとは
- * ホスピス緩和ケアを提供する形態
- * 緩和ケアの概念の変遷
- * 多摩地区のホスピス
- * 聖ヶ丘病院ホスピス 入院までの流れ、入院の費用について

最後に太田氏に関わってこられた、おそらく忘れられない症例を数例紹介していただきました。一つひとつの症例にドラマがあり感動しました。

患者や家族に正面から向き合うことで、相手の身になって考え、誠意をもって接し、出来ること・出来ないことを明確にして、どんなサポートが必要なのかを考え、病状の進行に合わせて、生きる意味を見出せるよう援助する。

家族に対しては後悔しないように今出来る事を精一杯行えるようサポートしていると仰っておられました。

第15回総会のお知らせ

5月29日 午後1時30分 講演会(多摩総合医療センター内科部長 芝 祐信先生)
午後2時30分 総会
午後4時40分 懇親会
会場 ルミエール府中 講習会議室(一階)

会員の皆様へ 会費の納入をお願いします。

編集後記 今回は会員の皆様への送付が遅れ申し訳ありませんでした。

会長の文章にもあるように、若いお母さん方の患者さんが増えているような傾向があります(統計的な根拠があるわけではないのですが)。妻の会社では1名が手術、1名が診断確定だそうです。

ウンベルト・エーコが亡くなりました。最新刊読書中です。会とは関係ありませんが好きなので。

武智

発行 府中がんケアを考える会・会報編集部

連絡先 183-0004 東京都府中市紅葉丘3-33-4 駒ヶ嶺 泰秀 電話・FAX 042-302-2607

Mail: ktakechi@fuchugancare.org (武智)